

ムーンショットの目標とは？

ムーンショット型研究開発制度の目標

- 目標 1：2050 年までに、人が身体、脳、空間、時間の制約から解放された社会を実現
- 目標 2：2050 年までに、超早期に疾患の予測・予防をすることができる社会を実現
- 目標 3：2050 年までに、AI とロボットの共進化により、自ら学習・行動し人と共生するロボットを実現
- 目標 4：2050 年までに、地球環境再生に向けた持続可能な資源循環を実現
- 目標 5：2050 年までに、未利用の生物機能等のフル活用により、地球規模でムリ・ムダのない持続的な食料供給産業を創出
- 目標 6：2050 年までに、経済・産業・安全保障を飛躍的に発展させる誤り耐性型汎用量子コンピュータを実現

(引用：内閣府 <https://www8.cao.go.jp/cstp/stmain/20200123moonshot.html>)

inspiring	研究者を魅了する、産業界を魅了する、世界を魅了する、国民を魅了する
Credible	困難ではあるが不可能ではない野心的目標とは？
Imaginative	従来技術の延長にない大胆な発想に基づく研究を誘発する目標とは？

2020 年 1 月 23 日開催された第 48 回総合科学技術・イノベーション会議において、ムーンショット目標が決定されました。ムーンショット目標とは、未来社会を展望し、少子高齢化や地球温暖化など困難だけれど実現すれば大きなインパクトが期待される社会課題等を解決する観点から、国内外から様々な研究アイデアを引き出し、従来技術にないような大胆な発想に基づく挑戦的な研究会開発を推進するために国が設定したムーンショット型研究開発制度の野心的な目標です。研究開発制度は、破壊的イノベーションの創出を目指し、より大胆な発想に基づく挑戦的な研究開発を、総合科学技術・イノベーション会議 (CSTI) を中心に、内閣府や文部科学省など関係省庁が一体となって推進するように 2019 年創設され、第 2 次補正予算で 5 年間に 1000 億円計上され、基金運営により最大 10 年間の支援が可能です。

この制度の趣旨は、多くの困難な課題に、科学技術が果敢に挑戦し、未来社会の展望を切り拓いていく期待に対し、従来の国家プログラムでは扱えなかったようなハイリスク・ハイインパクトな研究開発を対象にして、マネジメントについても世界中からトップ研究者の英知を結集し、様々なビジネス・アイデアとの融合を図りながら、グローバルかつスピードを重視したオープンイノベーション・プラットフォームづくりを目指す方向にあり、我が国発の破壊的イノベーションの創出を目指し、より大胆な発想に基づく挑戦的な研究開発を推進することです。

ムーンショットの目標は、6 つ決定されています。

この目標において考慮すべき視点として、どういった目標に人々は魅了されるかという Inspiring(感動)、野心的でインパクトが期待できる目標の Credible(信頼できる)、従来技術の延長にない大胆な発想の Imaginative(想像力)があげられています。

6 つの目標はすべて 2050 年までに、創出または実現するものばかりです。この目標達成のために、複数のプロジェクトマネージャー (PM) が採択され、PM が推進するプロジェクトで構成されるプログラムを統一的に指揮・監督するプログラムディレクター (PD) も任命されます。PD によって、目標を戦略的に達成するためのポーフォリオの案が作られ、PM が、基礎研究段階にある様々な知見やアイデアを採り入れ、失敗を恐れず挑戦的な研究に取り組み、革新的な研究成果を発掘・育成することになります。

[内閣府より公開されているムーンショット型研究開発制度の情報をもとに編集しております]